

最近の酪農情勢（メモ）

平成30年10月20日
日本酪農政治連盟

I 外交交渉

1. 日EU・EPA交渉

- 2013年3月：日EU首脳電話会談で、日EU・EPA交渉開始を決定。
- 2016年5月：G20伊勢志摩サミットに際し、関係首脳（イタリア、フランス、ベルギー、ドイツ、英国）から、2016年のできる限り早期の大筋合意に達するとの強いコミットメントを再確認する共同ステートメントを発出。
- 2016年12月：岸田大臣とマルムストローム欧州委員（貿易担当）との電話会談において、可能な限り早期の大筋合意を目指し、来月（2017年1月）速やかに交渉を開始することで一致。
- 2017年1月：（自由民主党）日EU経済連携対策議員連盟設立総会を開催。設立の趣旨は「情報開示を求めるとともに、我が国の関心事項が確実に実現できるよう働きかけを行うものとする。」こととし、岡田広氏（参議院議員）を会長に選任した。
- 2017年6月：（自由民主党）日EU等経済協定対策本部の設置を決定した。本部長に西川公也氏、幹事長に森山裕氏、事務総長に吉川貴盛氏を選任した。尚、政府は7月上旬の大枠合意を目指すとの報道もなされている。
- 2017年7月6日：安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大枠合意したと発表した。酪農関連ではソフト系チーズなどについて、製品ベースで3.1万トン（16年目）の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税（29.8%）を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン（6年目）の低関税輸入枠を設定する、などの内容となった。
- 2018年7月17日：安倍総理はドナルド・トウスク欧州理事会議長及びジャン＝クロード・ユンカー欧州委員会委員長との間で第25回日EU定期首脳協議及び少人数会合を実施し、日EU経済連携協定（EPA）及び戦略的パートナーシップ協定（SPA）に署名したと発表した。

2. TPP交渉関連

- 2017年5月：離脱した米国を除くTPP署名11か国は、21日、ベトナム・ハノイで閣僚会合を開催し、米国復帰の方策を含めてTPPの早期発効を迫るとの声明を採択した。
- 2017年11月11日：米国を除くTPP署名11か国は、新協定の大筋合意を発表した。焦点となった乳製品の低関税輸入枠の縮小など、農業分野の合意内容は見直さないうが、米国復帰が見込めない場合は、再協議できる新規定を設けた。
- 2018年1月：茂木敏充TPP担当相は閣議後の会見で、TPP11か国による新協定の早期署名へ、1月下旬に主席交渉官会合を開くことを表明した。しかし、カナダが消極的な態度を取っており、早期署名の実現は不透明な状況にある。
- 2018年3月：米国を除く環太平洋連携協定（TPP）参加国は8日、南米チリの首都サンチャゴで新協定「TPP11」に署名した。協定文が確定し、各国は国内の手続きを本格化させ、早期の発効を目指す。順調に進めば「2019年の早い時期」から「年内」に早まる可能性が出てきている。
- 2018年8月：日米両政府は9日新たな貿易協定（FFR）の初会合をワシントンで開催し

た。米国側は自由貿易協定（F T A）を念頭に2国間交渉を要求。日本側は環太平洋連携協定（T P P）復帰を改めて促し、双方の考えの肌たりが改めて浮き彫りになった。

3. 日米T A G交渉関連

2018年9月：安倍総理は26日、米国にてトランプ大統領と会談し、日米の全ての物品を対象にした日米物品貿易協定（T A G）の交渉入りに合意した。農林水産品の関税について、共同声明では環太平洋連携協定（T P P）で合意した範囲が最大限とする日本の立場に対し、米国は尊重するとの表現となった。

II 平成30年度畜産酪農対策

平成30年度畜産物価格・関連対策については、①補給金及び集乳調整金の単価は適正に決定すると共に、経営意欲の持てる単価とすること、②交付対象数量は国内の乳製品の需給状況を考慮し適切に決定すること、③加工原料乳等生産者経営安定対策事業は継続すること、などを要請した。

結果は、補給金単価が10.66円、対象数量は340万トン、所要額は363億円（前年所要額は370億円）となった。尚、集送乳調整金は2.43円/kg、加工原料乳生産者補給金は8.23円/kgとなった。これらの計算に使用された加工原料乳の集送乳経費の全国平均は（直近3年平均）3.11円/kg、そのうち集送乳に最低限必要な経費は0.68円/kgであった。

【指定食肉の安定価格】 牛肉〔安定上位価格1255(1215)円/kg、
安定基準価格925(920)円/kg〕

【指定肉用子牛】	保証基準価格	合理化目標価格
乳用種	141,000円/頭（136,000円）	98,000円/頭（93,000円）
交雑種	216,000円/頭（210,000円）	158,000円/頭（152,000円）

III 平成30年度政府農林予算2兆6525億円(対前年比115%)で決定（概算要求）

平成29年7月25日の常任中央合同委員会を経て要請内容を決定、特に本年度は①後継牛確保対策、②自給飼料対策、③経営安定対策、④その他対策（酪農経営体生産性向上緊急対策事業（働き方改革）の継続と拡充、畜産クラスター事業の拡充、酪農ヘルパー事業への支援継続等）を重点項目とし、要請運動を継続して展開した。これらの要請活動の結果、以下の事業等が政府案として決定した。

主な酪農関連対策

- ・飼料生産型酪農経営支援事業 {70億円(70)}
- ・加工原料乳生産者補給金 {370億円(370)}
- ・酪農経営体生産性向上緊急対策事業 {30億円(60)}
- ・飼料増産総合対策事業 {10億円(10)}
- ・鳥獣被害防止対策とジビエ利活用の推進 {153億円(97)}
- ・畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業 {575億円(685)} 補正
(この他、国産チーズ振興枠90億円)

- ・「酪農家の働き方改革」の短期・集中的な取組 50 億円 新規（ALIC事業）

IV ホクレン、平成 30 年度チーズ向乳価を 4～5 円値上げで決着(飲用などは据え置き)

平成 29 年 12 月 12 日、ホクレンは平成 30 年度乳価について、乳業メーカーとの平成 30 年度乳価交渉の結果、ハードチーズ向けを 4 円/kg、ソフトチーズ向けを 5 円/kg、を引き上げることとしたと発表した。飲用向け、特定乳製品向け、生クリーム向け等は据え置く。取引する 140 社のうち大手・中堅企業 15 社と合意したとのこと。

V 酪農家戸数 15,700 戸 (30.2/1 現在 畜産統計. 農水省 7/3 発表) () 内は前年

	酪農家戸数[戸]	乳牛飼養頭数[千頭]	一戸当たり飼養頭数[頭]
全 国	15,700 (16,400) 4.3%減	1,328 (1,323) 0.4%増	84.6 (80.7) 4.8%増
北海道	6,140 (6,310) 2.7%減	791 (779) 1.5%増	128.8 (123.5) 4.3%増
都府県	9,540 (10,100) 5.5%減	537 (544) 1.3%減	56.3 (53.8) 4.6%増

VI 配合飼料価格 (配合飼料給与、3.3 t/年・頭→1 万円上がれば 33,000 円の負担増)

- 20 年 10～12 月期、配合飼料価格最高値 67,600 円（生産者負担 59,950 円）を記録。
- シカゴ穀物 20 年 8 月より下げに転じたが、農家への値下げ反映は 21 年 1 月より。
- 24 年 10 月より再び急騰し、26 年 10～12 月一時値下げも次期反発し、高止まり状態。
- 27 年 1～3 月期 2,550 円上げ。円安に加え主原料の値上がりが要因。
- 27 年 4～6 月期 750 円下げ。7～9 月期 1,800 円下げ。10～12 月期据え置き。
- 28 年 1～3 月期 700 円下げ。4～6 月期 3,700 円下げ。7～9 月期 800 円上げ。
- 28 年 10～12 月期 1,650 円下げ。
- 29 年 1～ 3 月期 1,950 円上げ。4～6 月期 700 円上げ。7～9 月期 1,100 円下げ。
- 29 年 10～12 月期 400 円下げ。30 年 1～3 月期は 1,500 円上げ。4～6 月期 1,100 円上げ。
- 30 年 7～9 月期 1,550 円上げ。10～12 月期 800 円下げ。

VII 最近の酪政連活動 <<主な活動、下記は一例です。>>

政府・国会 その他	酪政連・関係機関
5/17(水)自民党 TPP総合対策本部:ハノイにおけるTPP閣僚会合についてを協議	4/12(水)0800民進党ヒアリング(加工原料乳生産者補給金制度の改革)
5/17(水)衆議院 農林水産委員会にて、「改正畜安法」の審議を開始。	4/14(土)1000三役会議
6/9(金)改正畜産経営安定法が国会で可決承認される。	5/17(水)1300合同委員会:日EU、EPA交渉、米国とのFTA交渉の状況、加工原料乳生産者補給金制度の改革の進捗、について
6/9(金)自民党、日EU等経済協定対策本部の設置を決め、第1回会合を開く。尚、政府は7月上旬の大枠合意を目指しているとの報道がなされている。	6/15(木)酪政連は、自民党の「日EU経済協定対策本部第4グループ(農業関連)の会合にて、これに関する要請を実施。
7/6(木)安倍総理はEUとの経済連携協定交渉が大筋合意に至ったと発表した。酪農関連ではソフト系チーズについて製品ベースで3.1万トン(16年目)の輸入枠を設定、枠内関税は16年目に撤廃。ハード系では関税(29.8%)を16年目に撤廃する。脱脂粉乳・バターについて、生乳換算で1.5万トン(6年目)の低関税輸入枠を設定する、など	7/5(水)～8(土)畜産ネットワークの一員として、佐藤副委員長をブリュッセルに派遣
の内容となった。	7/25(火)1100三役会議。
8/3(木)安倍総理は内閣改造と自民党役員人事を行った。(第3次安倍第3次改造内閣)農林水産大臣には斉藤健氏が就任した。自民党	7/25(火)1300常任中央合同委員会[自由民主党会館]日EU、EPA交渉、畜安法改正に伴うスキーム、平成30年度酪農政策予算確保、規約の一分改正、及び役員選任規程(案)の制定についてを協議

<p>の国会対策委員長には森山裕氏が就任した。また、その後の人事で農林部会長には、野村哲郎氏が就任した。</p> <p>8/25(金)自民党 農林水産戦略調査会、農林部会、農政推進協議会 合同会議:平成30年度概算要求 団体要請</p> <p>9/6(火)農林水産省は畜安法に係る政省令案をパブリックコメントとして公表。</p> <p>9/28(木)衆議院は9月28日午後の本会議で解散され、与野党は「10月10日公示、22日投開票」の日程で選挙戦に突入した。</p> <p>10/22(日)第48回衆議院議員総選挙は自由民主党、公明党の連立政権が2/3の議席を占め、圧勝となった。</p> <p>11/1(水)衆議院選挙をうけ、第195回特別国会が召集され、安倍晋三首相を第98代首相に選んだ。皇居での首相親任式と閣僚認証式を経て、第4次安倍内閣が発足し、全ての閣僚が再任された。</p> <p>11/11(土)米国を除くTPP署名11か国は、新協定の大筋合意を発表した。焦点となった乳製品の低関税輸入枠の縮小など、農業分野の合意内容は見直さないが、米国復帰が見込めない場合は、再協議できる新規定を設けた。</p> <p>12/7(木)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、平成30年度畜産物価格について団体要請を受ける。</p> <p>12/11(月)自由民主党畜産・酪農対策委員会が開催され、現地調査結果が報告され、団体要請を受ける。</p> <p>12/15(金)自由民主党、農業・食料戦略調査会、農林部会、農政推進協議会合同会議が開催され、平成30年度農林関係税制改正(結果報告)、平成29年度補正予算重点事項、平成30年度農林水産関係予算等について協議される。</p> <p>3/13(火)TPP・日EU等経済連携協定対策本部、内閣第2部会、外交部会合同会議にてTPP11の概要の報告会が開催される。</p> <p>3/25(日)グランドプリンスホテル高輪にて、第85回自由民主党定期大会が開催される。</p> <p>8/24(金)自民党 農林水産戦略調査会、農林部会、農政推進協議会 合同会議:平成31年度概算要求 団体要請</p> <p>9/28(金)自民党 農林・食糧戦略調査会、農林部会、農業基本政策検討委員会・農林水産災害対策委員会 合同会議:平成30年北海道胆振東部地震及び台風21号における農林関係被害等について</p>	<p>8/18(金)1400三役会議 補助事業に関する農林水産省との意見交換会</p> <p>9/6(火)斉藤農林水産大臣に面会、就任祝いと平成30年度予算要請を実施。</p> <p>10/10(火)衆議院議員解散総選挙公示に伴い、酪農に理解のある候補者の応援活動を開始した。10/11日開催予定であった合同委員会は中止となった。</p> <p>10/22(日)第48回衆議院議員総選挙について、酪政連は157名の推薦をしたが、うち142名が当選、当選率は90.45%となった。</p> <p>11/1(水)委員長他三役は衆議院総選挙の当選祝いで議員会館を訪問。</p> <p>11/9(木)農林・食料戦略調査会・食料産業調査会・農林部会合同会議において、平成30年度税制改正要請を実施。</p> <p>11/29(水)1300常任中央合同委員会[自由民主党本部] 平成30年度酪農政策・予算確保に関する要請、平成30年度畜産物価格及び関連対策に関する要請等について協議。</p> <p>12/7(木)自由民主党畜産振興議員連盟総会が開催され、平成30年度畜産物価格について委員長より団体要請を実施。</p> <p>12/11(月)自由民主党畜産・酪農対策委員会が開催され、委員長より団体要請を実施。</p> <p>2/16(金)1430事務局長会議</p> <p>3/7(水)1100三役会議[自由民主会館]</p> <p>3/7(水)1300常任中央合同委員会[自由民主会館]</p> <p>3/7(水)1400通常総会[自由民主会館]</p> <p>4/5(木)1300三役会議[全理連ビル] 平成31年度酪農政策・予算確保に関する要請について協議、新執行部にて酪政会の先生方に挨拶回りを実施。</p> <p>5/14(月)1300正・副委員長会議 平成31年度酪農政策・予算確保に関する要請を協議。 会議終了後、農林水産省と意見交換会を実施。</p> <p>5/15(火)1600 農林水産省上月政務官に挨拶・意見交換(大槻委員長他)</p> <p>5/31(木)1100三役会議[自由民主会館]</p> <p>5/31(木)1300常任中央合同委員会[自由民主会館]</p> <p>5/31(木)1600自由民主党東北酪政会が開催される[自由民主会館]</p> <p>7/31(火)1000三役会議[砂防会館]</p> <p>7/31(火)1200自由民主党酪政会総会[自由民主会館]</p> <p>7/31(火)1400常任中央合同委員会[自由民主会館]</p> <p>8/29(水)1700斉藤健農林水産大臣面会、平成31年度酪農政策・予算確保の要請を実施</p> <p>10/4(水)1300三役会議[全理連ビル]</p> <p>10/10(水)1300中央委員会[自由民主会館]</p>
---	--

I 生乳・牛乳・乳製品等の動向

1. 生乳受託販売量・用途別処理量〔中央酪農会議、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	合計		北海道		都府県		飲用向け		発酵乳等向		特定乳製品向		生クリーム等向		チーズ向	
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%
27	7,122.1	100.78%	3,805.3	101.96%	3,316.8	99.47%	3,261.8	99.71%	451.8	101.26%	1,637.1	106.44%	1,341.8	99.47%	429.6	92.92%
28	7,054.4	99.05%	3,792.3	99.66%	3,262.1	98.35%	3,287.9	100.80%	453.4	100.35%	1,548.8	94.61%	1,339.4	99.82%	415.0	96.60%
29	6,983.1	98.99%	3,799.7	100.19%	3,183.4	97.59%	3,266.8	99.36%	472.3	104.17%	1,499.8	96.84%	1,329.2	99.24%	415.0	100.00%
29.10.	574.7	99.63%	314.3	101.01%	260.4	98.02%	288.2	98.56%	38.7	103.30%	106.5	107.44%	111.7	98.15%	29.5	86.90%
11	556.7	100.19%	303.9	102.42%	252.7	97.63%	272.5	99.83%	37.3	103.86%	105.9	102.02%	110.7	97.45%	30.4	103.20%
12	582.5	99.85%	318.4	102.10%	264.1	97.27%	256.6	101.39%	36.6	104.04%	142.1	94.28%	112.2	98.59%	35.0	114.42%
30.1	595.5	100.19%	325.8	102.81%	269.7	97.19%	267.2	99.04%	37.7	103.58%	148.0	103.42%	106.3	98.45%	36.4	97.78%
2	543.9	100.23%	296.0	102.53%	247.9	97.62%	248.8	97.73%	34.8	103.21%	122.5	104.69%	101.5	99.78%	36.3	101.90%
3	610.0	100.85%	328.1	102.43%	281.9	98.66%	255.8	98.50%	39.8	104.42%	155.3	102.98%	118.0	101.88%	41.0	98.79%
4	597.5	100.83%	319.6	102.18%	277.8	99.31%	263.5	99.55%	39.9	98.29%	145.7	104.38%	114.2	101.55%	34.0	96.97%
5	619.1	100.07%	335.6	101.68%	283.5	98.23%	289.2	101.86%	41.8	97.21%	139.8	95.19%	114.1	103.67%	34.2	98.21%
6	594.3	100.72%	329.2	103.07%	265.1	97.94%	290.2	101.72%	41.1	98.98%	119.0	99.99%	110.5	101.35%	33.5	95.10%
7	588.9	100.54%	333.4	103.20%	255.5	97.27%	287.3	100.59%	41.3	98.22%	112.4	103.25%	112.8	98.43%	35.1	101.51%
8	580.1	100.93%	328.4	102.43%	251.7	99.04%	272.0	102.88%	41.5	98.91%	122.4	101.16%	110.7	97.66%	33.5	98.32%
9	536.7	96.19%	291.2	94.78%	245.5	97.91%	280.0	95.29%	38.3	100.30%	83.3	99.00%	108.3	99.07%	26.9	82.53%
30.4-9	3,516.7	99.91%	1,937.4	101.27%	1,579.2	98.29%	1,682.3	100.27%	243.9	98.62%	722.7	100.44%	670.6	100.27%	197.2	95.57%

2. 生乳生産量・用途別処理量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千トン、(前年同月比%)〕

年度月	生乳生産量						処理内容							市乳化率(B/A)	
	合計[A]		北海道		都府県		牛乳等向け			乳製品向け		その他			
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	[B]	うち業務用向け	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量		前年同月比%
27	7,407.3	101.04%	3,897.1	102.01%	3,510.2	99.98%	3,953.2	101.10%	314.6	103.77%	3,398.5	101.10%	55.6	93.50%	53.37%
28	7,346.0	99.17%	3,895.5	99.96%	3,450.4	98.30%	3,984.1	100.78%	305.6	97.14%	3,310.5	97.41%	51.3	92.35%	54.24%
29	7,291.7	99.26%	3,915.8	100.52%	3,375.9	97.84%	3,982.2	99.95%	320.0	104.69%	3,259.9	98.47%	49.1	95.68%	54.61%
29.9	580.7	99.18%	315.1	100.39%	265.6	97.78%	349.8	100.18%	26.8	98.90%	226.4	97.55%	4.1	94.73%	60.23%
10	600.7	100.04%	325.3	101.83%	275.4	98.00%	347.5	99.18%	30.6	111.54%	249.0	101.42%	4.2	92.20%	57.85%
11	582.6	100.55%	315.1	103.15%	267.5	97.66%	329.8	99.85%	29.8	104.48%	248.7	101.56%	4.1	97.38%	56.60%
12	610.9	100.16%	330.4	102.55%	280.5	97.48%	316.1	101.27%	28.4	104.74%	290.7	99.04%	4.1	96.65%	51.74%
30.1	621.3	100.52%	334.7	103.18%	286.6	97.57%	324.3	101.25%	26.1	105.95%	293.0	99.80%	4.0	94.38%	52.19%
2	569.1	100.48%	306.0	102.97%	263.1	97.73%	303.5	99.94%	26.0	118.16%	261.6	101.20%	3.9	94.73%	53.33%
3	639.3	100.77%	339.7	102.68%	299.6	98.70%	319.4	99.70%	28.0	109.50%	315.9	101.91%	4.0	99.18%	49.96%
4	623.8	101.15%	328.7	102.48%	295.1	99.70%	324.3	100.16%	27.3	109.96%	295.4	102.29%	4.1	98.37%	51.99%
5	647.9	100.41%	345.9	101.92%	302.1	98.74%	351.9	101.48%	28.4	114.12%	291.9	99.21%	4.1	96.88%	54.31%
6	620.9	101.04%	340.3	103.71%	280.6	97.98%	351.5	101.19%	27.3	112.83%	265.4	100.87%	4.1	99.98%	56.61%
7	616.5	101.03%	344.9	104.06%	271.6	97.43%	350.3	101.08%	26.0	105.14%	262.0	100.96%	4.2	101.78%	56.82%
8	606.8	101.04%	339.5	102.84%	267.3	98.85%	333.3	101.77%	27.4	106.87%	269.3	100.15%	4.1	100.95%	54.93%
30.4-8	3,115.8	100.93%	1,699.2	103.00%	1,416.6	98.55%	1,711.2	101.14%	136.356	109.76%	1,384.0	100.69%	20.6	99.57%	54.92%

3. 飲用牛乳等生産量〔農水省、年度・月別〕

〔単位：千ℓ、(前年同月比%)〕

年度月	飲用牛乳等									乳飲料		発酵乳		乳酸菌飲料		
	合計		牛乳		加工乳・成分調整牛乳					数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	
	数量	前年同月比%	数量	前年同月比%	合計	加工乳	成分調整牛乳									
27	3,464.1	100.30%	3,013.9	100.65%	450.2	97.70%	101.0	87.55%	349.2	101.80%	1,293.7	97.80%	1081.3	107.50%	145.3	98.90%
28	3,500.9	101.06%	3,058.6	101.48%	442.3	98.25%	101.2	100.28%	341.1	97.67%	1,226.4	94.80%	1091.7	100.96%	141.3	97.23%
29	3,534.4	100.96%	3,094.7	101.18%	439.8	99.42%	93.0	91.84%	346.8	101.68%	1,164.3	94.94%	1074.3	98.41%	126.0	89.16%
29.9	308.7	101.24%	272.0	101.76%	36.7	97.59%	7.2	89.60%	29.4	99.78%	106.4	94.48%	90.7	101.06%	9.7	85.66%
10	311.0	100.72%	275.4	101.42%	35.6	95.67%	7.2	87.69%	28.4	97.94%	98.0	90.97%	89.4	96.84%	9.4	84.11%
11	295.8	101.33%	261.3	101.92%	34.4	97.05%	8.1	91.37%	26.3	98.95%	88.6	95.58%	85.5	97.87%	9.3	88.80%
12	284.3	101.43%	249.5	102.23%	34.8	95.99%	8.8	88.78%	26.0	98.69%	88.6	97.37%	85.5	100.76%	9.3	91.63%
30.1	287.6	100.17%	253.5	101.57%	34.0	90.81%	7.6	83.25%	26.4	93.26%	84.7	94.06%	88.5	100.66%	10.4	107.51%
2	271.3	99.25%	239.2	100.11%	32.1	93.24%	7.3	86.48%	24.8	95.45%	78.0	94.32%	82.0	98.87%	9.0	90.54%
3	282.5	99.65%	247.0	100.38%	35.5	94.91%	8.4	92.41%	27.1	95.70%	91.3	96.30%	93.6	101.61%	10.9	91.37%
4	287.0	100.45%	252.4	101.45%	34.6	93.68%	7.3	89.67%	27.2	94.82%	92.9	95.79%	92.7	101.00%	11.2	87.11%
5	313.5	102.86%	278.0	104.03%	35.5	94.54%	7.5	94.09%	28.0	94.66%	96.8	92.02%	95.4	99.58%	11.4	93.02%
6	309.5	101.83%	275.4	103.18%	34.2	92.14%	6.9	91.91%	27.3	92.20%	95.7	91.67%	93.0	99.65%	11.6	96.61%
7	310.6	101.81%	273.9	102.96%	36.8	94.01%	7.1	95.44%	29.6	93.67%	102.9	91.49%	92.2	99.20%	11.3	95.06%
8	290.5	101.74%	253.9	102.79%	36.7	95.03%	7.8	102.32%	28.9	93.25%	103.4	91.74%	89.3	99.86%	10.8	101.72%
30.4-8	1,511.2	101.75%	1,333.5	102.90%	177.7	93.89%	36.7	94.60%	141.0	93.71%	491.7	92.47%	462.6	99.85%	56.4	94.43%

4. バター、脱脂粉乳の生産・在庫状況

■30年8月生産量：バター4.9千トン(前年比99.4%)、脱脂粉乳9.6千トン(前年比99.9%)

■30年8月末在庫量：バター27.0千トン(前年比94.9%)≪4.5カ月≫、脱粉65.1千トン(前年比119.9%)≪5.7カ月≫

(参考：29年度年間出回り量月平均、バター5.9千トン、脱粉11.7千トン)

	バター生産		脱脂粉乳	
	千トン	%	千トン	%
26年度	61,649	95.87%	120,921	93.87%
27年度	66,299	107.54%	130,187	107.66%
28年度	63,583	95.90%	123,500	94.86%
29年度	60,087	94.50%	121,583	98.45%
29.9	3,330	92.90%	7,074	96.51%
10	4,170	103.78%	8,917	112.65%
11	3,989	95.86%	9,002	101.97%
12	5,295	92.98%	12,342	94.33%
30.1	5,914	98.08%	11,466	102.80%
2	5,029	102.99%	9,667	102.57%
3	6,330	104.08%	12,273	99.72%
4	5,986	104.69%	11,666	100.25%
5	5,804	93.76%	11,046	95.59%
6	4,823	99.36%	9,391	99.35%
7	4,687	108.82%	8,650	100.52%
8	4,932	99.42%	9,581	99.87%
30.4-8	26,232	100.77%	50,334	99.00%

5. 生乳・生産物・配合飼料価格の推移(前年同月比)

	総合乳価 [円/10kg]		乳廃牛 [円/生体1kg]		子牛(千円/頭)						乳用牛配合飼料 (千円/ぼら1トン)	
	千円	%	千円	%	ホルオス		交雑種		ホルメス		千円	%
23年度	893	100.10%	171	109.60%	37.5	111.30%	117.1	92.40%	203.2	110.30%	62.9	106.10%
24年度	903	101.12%	152	88.89%	32.4	86.40%	103.4	88.30%	220.4	108.46%	62.9	100.00%
25年度	910	100.78%	205	134.87%	46.5	143.52%	143.2	138.49%	217.2	98.55%	70.6	112.24%
29.8	1,033	101.47%	256.5	84.10%	102.2	102.32%	243.1	91.01%	457.9	124.70%	67.4	98.42%
9	1,030	101.58%	246.1	72.36%	93.1	106.31%	225.3	91.25%	513.4	114.01%	67.4	98.35%
10	1,053	101.54%	254.0	81.07%	101.5	115.88%	216.0	91.02%	463.9	94.08%	67.1	99.64%
11	1,049	101.55%	259.4	84.00%	114.0	121.35%	211.9	83.79%	459.1	102.55%	67.2	99.66%
12	1,043	101.36%	245.3	87.76%	119.4	133.71%	216.5	84.60%	452.1	94.15%	67.2	99.66%
30.1	1,018	101.50%	249.1	88.40%	116.0	142.16%	212.7	84.57%	420.8	97.70%	68.9	102.07%
2	1,015	100.59%	241.0	80.39%	129.9	137.43%	216.5	83.75%	431.4	95.40%	68.8	101.78%
3	1,021	101.29%	246.6	83.82%	148.8	141.58%	234.0	87.48%	448.1	102.24%	68.8	101.78%
4	1,007	101.10%	259.9	89.62%	157.6	139.96%	250.0	87.11%	486.3	104.24%	70.1	103.36%
5	1,010	99.21%	279.9	97.97%	152.2	130.20%	257.4	89.69%	440.0	87.46%	70.1	103.39%
6	1,020	100.59%	294.2	100.96%	145.1	111.62%	270.4	96.81%	455.5	94.88%	70.1	102.44%
7	1,020	99.13%	266.3	96.70%	132.2	111.47%	265.6	98.44%	455.3	93.74%	71.3	105.49%
8	1,039	100.58%	236.6	92.24%	120.2	117.61%	258.3	106.25%	429.9	93.89%	71.4	105.86%

資料：農林水産省「農作物価統計」

注：1.平成8年度以降の総合乳価平均価格は牛乳乳製品課推計。

2.乳廃牛価格は、中央卸売市場の乳用メス(乳用種)枝肉C1の平均価格であり、年度平均は各月の単純平均。

3.乳子牛価格について、ホルオスは生後7～10日、ホルメスは生後6カ月程度。F1オスについては、道内11市場における加重平均。

4.配合飼料価格は、小売店頭等での購入価格。

5.()内は年度平均価格については対前年度比、月平均価格については対前年同月比。

II 牛肉、子牛価格の動向

(1) 8月推定出回り量75.6千トン(前年比107.9%)、推定期末在庫123.3千トン(前年比106.3%)

年度月	生産量		輸入量		国内生産量の割合	推定出回り量					
	数量	割合	数量	割合		合計	うち輸入量		うち国産品		
26	351,555	99.30%	516,313	96.41%	40.51%	846,265	97.61%	492,855	95.61%	353,409	100.54%
27	332,408	94.60%	487,098	94.40%	40.56%	829,347	98.00%	500,834	101.60%	328,513	93.00%
28	324,257	97.55%	525,694	107.92%	38.15%	861,099	104.58%	538,565	108.77%	322,534	98.25%
29	329,730	101.69%	571,854	108.78%	36.57%	903,841	104.96%	575,804	106.91%	328,037	101.71%
29.7	28,628	101.34%	56,387	97.45%	33.67%	79,497	97.13%	50,925	93.29%	28,572	104.83%
8	25,762	100.51%	46,850	121.01%	35.48%	70,057	110.16%	44,264	117.09%	25,793	100.00%
9	26,318	99.74%	60,910	144.00%	30.17%	83,873	117.99%	59,087	130.98%	24,786	95.43%
10	28,288	104.05%	43,318	105.02%	39.51%	72,136	93.99%	42,833	85.59%	29,303	109.73%
11	32,986	101.13%	41,554	95.13%	44.25%	75,114	94.71%	42,919	91.52%	32,195	99.33%
12	31,983	105.43%	46,994	104.25%	40.50%	84,776	105.57%	53,222	106.35%	31,554	104.29%
30.1	25,080	102.88%	35,648	102.72%	41.30%	64,988	105.34%	39,667	108.11%	25,321	101.29%
2	24,521	100.64%	37,200	91.63%	39.73%	64,249	95.95%	39,970	92.59%	24,279	102.06%
3	26,406	101.79%	44,860	103.02%	37.05%	77,427	111.31%	50,931	116.23%	26,496	102.93%
4	28,775	101.62%	62,110	120.64%	31.66%	89,694	112.66%	60,718	118.22%	28,976	102.57%
5	26,407	103.89%	54,136	95.91%	32.79%	74,517	94.21%	48,096	90.29%	26,421	102.27%
6	26,327	101.16%	47,319	94.26%	35.75%	71,011	97.26%	44,997	95.01%	26,014	101.40%
7	30,058	105.00%	65,501	116.16%	31.45%	86,244	108.49%	56,455	110.86%	29,789	104.26%
8	25,781	100.07%	57,729	123.22%	30.87%	75,608	107.92%	50,115	113.22%	25,493	98.84%
30.4-8	137,348	102.39%	286,795	109.73%	31.66%	397,074	104.14%	260,381	105.34%	136,693	101.93%

(2) 乳子牛(ホルスタイン)価格の推移 <農水省農産物価指数>

[単位:円/頭(前年同月比%)]

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平均
28	106,300	109,300	108,400	113,800	126,200	128,500	119,100	99,880	87,590	87,610	93,940	89,250	105,823
	258.20%	238.59%	214.19%	191.68%	168.15%	145.08%	141.23%	146.09%	129.72%	114.84%	100.60%	84.68%	148.37%
29	81,570	94,520	105,100	112,600	116,900	130,000	118,600	102,200	93,120	101,500	114,000	119,400	107,459
	76.74%	86.48%	96.96%	98.95%	92.63%	101.17%	99.58%	102.32%	106.31%	115.85%	121.35%	133.78%	101.55%
30	116,000	129,900	148,800	157,600	152,200	145,100	132,200	120,200					137,750
	142.21%	137.43%	141.58%	139.96%	130.20%	111.62%	111.47%	117.61%					128.19%

■肉用子牛基金:28年度→乳用種=保証基準価格133,000円、合理化目標価格90,000円、交雑種=同205,000円、同147,000円。29年度→乳用種=保証基準価格136,000円、合理化目標価格93,000円、交雑種=同210,000円、同152,000円。30年度→乳用種=保証基準価格141,000円、合理化目標価格98,000円、交雑種=同216,000円、同158,000円。

補給金交付単価は、24第1四半期:乳用種34,350円、第2四半期:乳用種24,100円、第3四半期:乳用種18,200円、第4四半期:乳用種10,600円、

25年度、26年度、27年度、28年度、共に全期間補填実績なし

29年度、第1四半期乳用種0円、第2四半期:乳用種0円、第3四半期:乳用種0円、第4四半期:乳用種0円。

III 飼料等の動向

・配合飼料価格:平成30年10~12月はトン800円値下げ(全農)。主としてとうもろこしの単位収量増、大豆粕の輸出減などにより穀物相場が下落したことなどにより、値下げとなった。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
28	70,940	70,940	70,740	67,450	67,390	67,390	68,500	68,510	68,500	67,300	67,400	67,440
	94.57%	94.47%	94.46%	91.76%	91.71%	91.71%	95.19%	95.22%	95.21%	93.64%	93.81%	93.85%
29	67,510	67,570	67,580	67,780	67,760	68,440	67,630	67,420	67,370	67,060	67,170	67,170
	95.16%	95.25%	95.53%	100.49%	100.55%	101.56%	98.73%	98.41%	98.35%	99.64%	99.66%	99.60%
30	68,910	68,810	68,840	70,060	70,110	71,340	71,370					
	102.07%	101.84%	101.86%	103.36%	103.47%	104.24%	105.53%					

■配合飼料販売価格の改定幅と補填の実施状況

[単位:円/トン(補填交付金)]

	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月
24	▲2,600(0)	900(0)	900(350)	4,350(5,450)
25	0(4,300)	3,200(5,800)	1,300(5,050)	▲2,750(700)
26	▲500(0)	1,300(0)	800(0)	▲2,650(800)
27	2,550(800)	▲750(0)	▲1,800(0)	0(0)
28	▲700(0)	▲3,700(0)	800(0)	▲1,650(0)
29	1,950(950)	700(1,700)	▲1,100(0)	▲400(0)
30	1,500(0)	1,100(300)	1,550(未定)	▲800(未定)

■米国産穀物の今年度需給見通し(米国農務省10月11日発表)

<期末在庫>大豆は、生産は微減、需要は横ばい、在庫予想は増加となった。小麦は、生産は微増、需要は減少となり、在庫予想は増加となった。とうもろこしは、生産は減少、需要は増加となったが、在庫予想も増加となった。

* 大豆……………前月に比べ、生産は微減、需要は横ばい、在庫予想は増加となった。(前年比202%)

* 小麦……………前月に比べ、生産は微増、需要は減少となり、在庫予想は増加となった。(前年比87%)

* トウモロコシ…… 前月に比べ、生産は減少、需要は増加となったが、在庫予想も増加となった。(前年比85%)

<需 給>

大豆 生産 1億2,763万トン
大豆 需要 1億1,614万トン
(9/1~8/31) 在庫率20.7% 期末在庫2,409万トン(前年比202%)

小麦 生産 5,129万トン
小麦 需要 5,898万トン
(6/1~5/31) 在庫率 44.1% 期末在庫2,603万トン(前年比87%)

トウモロコシ 生産 3億7,537万トン
トウモロコシ 需要 3億8,496万トン
(9/1~8/31) 在庫率 12.0% 期末在庫4,606万トン(前年比85%)

■シカゴ相場〔ドル/ブッシェル〕

■為替相場〔東京・銀行間直物中心、円/ドル〕

	トウモロコシ	大豆	小麦	対ドル	円相場
12年	6.95	14.66	7.51	12年	82.89
13年	5.78	14.07	6.84	13年	100.16
15年	3.77	9.45	5.07	15年	120.13
2017年11月10日	3.40	9.80	4.30	11月15日	113.45
12月1日	3.40	9.90	4.10	12月14日	112.55
2018年1月5日	3.50	9.60	4.30	1月16日	111.05
2月2日	3.60	9.80	4.50	2月15日	107.86
3月2日	3.80	10.60	4.90	3月23日	105.93
4月6日	3.90	10.30	4.70	4月12日	106.80
5月4日	4.00	10.30	5.30	5月10日	110.96
6月4日	3.90	10.20	5.20	6月15日	111.68
7月6日	3.50	8.70	5.10	7月13日	113.18
8月3日	3.70	8.90	5.60	8月10日	111.92
9月7日	3.50	8.30	4.90	9月13日	112.43
10月5日	3.70	8.70	5.20	10月11日	113.36

■海上運賃〔米ガルフ→日本、穀物、パナマックス(5~8万トン級)、ドル/トン〕

【20年度93.37 21年度70.26 22年度61.23 23年度51.57 24年度45.75】

28年 1/14=24.18 2/16=23.05 3/14=24.79 4/15=28.62 5/23=28.73 6月平均=30.54 7月平均=33.26 8月平均=30.29 9月平均=29.92 10月平均=31.29 11月平均=33.03 12月平均=35.8 29年1月平均=35.44 2月平均=36.51 3月平均=38.71 4月平均=40.51 5月平均=36.90 6月平均=38.28 7月平均=39.78 9月平均=41.56 10月平均=43.10 11月平均=44.37 12月平均=45.21 30年1月平均=45.52 2月平均=43.95 3月平均=46.81 4月平均=45.81 5月平均=45.31 6月平均=47.11 7月平均=49.36 8月平均=48.85 9月平均=49.83